



不易流行

鈴木 充男 (すずき みつお)

共同印刷株式会社 代表取締役
郡山市



■ 変えてはならないもの 変えなければなら ないもの

「不易流行」とはよく耳にする言葉ですが、その意味を調べてみると、晩年の松尾芭蕉が俳諧の本質をとらえるための理念として提起したもので、「不易」は時代の新古を超越して不変なるものを、「流行」はそのときどきに応じて変化してゆくものを意味しますが、両者は本質的に対立するものではなく、真に「流行」を得ればおのずから「不易」を生じ、また、真に「不易」に徹すればそのまま「流行」を生ずるものだと考えられると、江戸時代中期の俳論書「去来抄」に書かれてありました。

経済界でも最近よくこの言葉が引用されるようですが、分かりやすく解釈すると、「不易」とは「変わらないもの、変えてはならないもの」、つまり「不変の真理」ということです。どんなに時代が変わろうとも「お役立ち」という商いの本質は変わらないし変えてはならないものです。この本来あるべき商いの本質を忘れて自分の利益を優先させ、取引業者をたたいたり、偽装工作などで一時は繁栄してもやがて衰退・消滅していった企業

のいかに多いことか、これまでの歴史が証明しています。

一方、「流行」とは、時代の変化とともに「変わっていくもの、変えていかなければならないもの」ということです。どんなにまっとうな商いでも、時代の変化やお客様のニーズを無視して永続することはできません。

以前、本誌2005年4月号(No.272)に「物の見方 考え方」というタイトルで羊羹の虎屋さんの事例を紹介させていただきました。

虎屋さんは室町時代後期に創業し約500年の歴史と伝統を持つわが国を代表する超老舗企業です。現在は17代当主黒川光博さんが暖簾を受け継いでおられますが、虎屋の永続の秘訣は「伝統と革新」にあるとっておられます。

“羊羹”という伝統ある日本のお菓子に特化し、頑なにその伝統を守る【不易】のために、常に材料を吟味し（仕入れの革新）、製造方法を改善し（作り方の革新）、どうしたらもっと買っていただけるか（売り方の革新）を考える。常に革新の連続であった【流行】と仰っています。

当県の銘菓、柏屋さんの薄皮まんじゅうも時代

とともに微妙に味を変えてきていると聞きます。

■ 印刷業界に急激な変化

ドイツのゲーテンベルグが活版印刷術を発明して以来、私たちの印刷業界は600年近くの歴史を持ちますが、パソコンの出現により、ここ20年くらいの間にアナログ印刷からデジタル印刷へと急激な変貌を遂げました。

さらに昨今では、スマートフォンやタブレットの活用で急激にペーパーレス化が進み、製紙メーカーの出荷量も毎年減少を続けておりますが、最盛期には5万軒を超えていた印刷業者も、現在では2万軒前後と大幅に減少してきており、頷ける話です。

印刷の仕事は、これまで社会・経済・文化の発展に大きな役割を担ってきましたが、以上のように業界の急激な環境変化から、私たち印刷業者は、これからも続けていくのか、それとも廃業するのか、はたまた新しい分野に挑戦していくのか、厳しい選択を迫られる時代になりました。印刷の仕事が無くなることはないと思いますが、淘汰はさらに進んでいくことになると考えます。

印刷業は典型的な製造業で、ほぼ100%受注産業として発展してきただけに、すぐになにか革新的な変化をつくりだすのは難しいところがあります。

■ 昔の物が今を支える

数年前、都内の駐停車禁止区域が増えたために宅急便業界が困窮したときがありました。その時、宅急便業界を救ったのが(株)ムラマツ車輛でした。この会社で今でも作り続けているリヤカーが大活躍したのです。

トラックの荷物をリヤカーに積み替えて配達することで、宅急便業界はこの難局を乗り越えたのです。リヤカーと言えば昔ながらの古いものと

いったイメージを持ちますが、時代の変化に見事にマッチして、今や都会での配達には欠かせない存在になっております。

■ 需要と供給のバランス

経済は需要と供給のバランスが大事です。需要が少なくなっても供給する側も減っていけばバランスは保たれます。私たち印刷業も需要の減少に合わせて印刷業者の軒数が少なくなってきておりますので、ここで踏ん張れば生き残ることは十分可能だと思います。

■ 当社の差別化

当社は東日本大震災以降、大熊町から郡山市に拠点を移し、幸いにも企業立地補助金制度を活用することが出来たことで、長年の目標であった、あらゆる印刷の仕事に対応できる作業環境をつくりあげることが出来ました。カラー印刷は勿論のこと、頁物の印刷、帳票類の印刷、後加工の製本工程に至るまで、すべての工程を外注に依存することなく内製化できるようになったのです（ワンストップサービス）。

お陰様で全国のお客様から幅広くお仕事を頂けるようになりました。原発事故からの完全復活もそう遠い事ではないと思います。

今後は、お客様にとって無くてはならない印刷会社を目指していきたいと考えております。

